

みつけた！



六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

二又地区の石神様伝説！

2024年4月27日、ふるさと歴史散歩「二又地区の魅力発見ツアー」の見学コース2番の「石神様」についてご紹介いたします。

実は、昭和55(1980)年5月5日付けの、村が発行していた広報誌の前身「官報わかくさ」に、二又の石神様の記事が掲載されていました。この写真を秋戸淳一さんご自身が撮影していたと、ご紹介をいただいております。そこで、ツアーに先立ち、今年の2月に調査し、ツアーに入れました。

そもそも石神様は、古来より各地にあり、六ヶ所倉内にもあったようですが、今は地名だけが残っています。神の依り代として祭った岩で、厄除けや授福、治療の神としてその霊力が信じられていました。旅人は、治療の効能があることを知っていて、この石にかみついたのかもしれませんが。このような伝承が伝わるこの石は、二又地区の宝として、長く伝えていきたいものです。



二又の石神様：官報「かわらばん」の写真より

白黒写真ながら、右側の大きな石は、板状か、柱のように角張っている。新第三紀中新世中期の約 1,600 万年前から 1,540 万年前に起こった浅瀬の海底火山の噴火時に貫入した溶岩（泊層）のようだ。溶岩が徐々に冷え固まり柱のように割れ目（柱状節理）が入り、長い間の雨風の浸食により地表に顔を出した安山岩で、現在の石神様の周辺や集落内でも、同様な石を確認できることから、谷川に堆積した礫と考えられる。（館長）

※県立郷土館副館長島口天氏による解説

『この石は安山岩で、赤茶の部分は鉄分に銹染されたように見える。表面の孔は、浅い海の岩に孔を開ける穿孔貝（せんこうがい）の一種カモメガイなどの巣穴で、谷底低地の堆積岩が、取り残されたもの』と考えられる。



泊海岸のタタミ岩(玄武岩質安山岩)※郷土館職員撮影